



kirari



おお うちら ゆ き
大浦 有貴さん

プロフィール

33歳。上対馬町河内出身。長崎総合科学大学建築学科で住居学を学ぶ。雑貨の店「モノコムサ」に憧れて親会社ファイブフォックスに勤務。キャナルシティ店のオープンにも携わった。帰郷後、実家のそばに手作りアクセサリーと陶器の店「kirari」を2005年にオープン。店名には「人もモノもキラリとした出会いがあるように」との願いが込められている。上対馬町大浦に夫と3歳の息子の3人暮らし。

アクセサリーを作り始めたのは？

対馬に帰ってきてからです。自分ではもともとアクセサリーはつけないほうでしたが、友達の結婚式に出席する時につけようと、自分のために作ってみたら楽しくて。お店を始める前から友達や知り合いのためにちよくちよく作ってはいいましたが、妹が陶芸をしているので、彼女の作品と一緒にお店をしたらどうかな...と思って。今思うと、何かを自分でしたいなと思って、対馬に帰ってきた気がします、多分(笑)。とにかくディスプレイすることが好きで、会社にいる時もディスプレイばかりしていました。でも会社じゃ自分の好きなようにはできないんですよね。自分のものならディスプレイも自由にできるなぁと思ったのもお店を始めるきっかけの一つかと思えます。

学校で専攻された経験が生きている素敵な店舗ですね。

もともとあった倉庫が台風で破損して、建て替える時に一部分をお店のためにと両親が準備してくれました。内装も時々手を入れていて、壁を白一色にし

たいとか今後もいろいろと計画はありますが、まだ進歩中です。もちろん自分で作業します。頭の中のスイッチがピツと入ったら。

お店の噂はいろんな方からうかがっていました。

ありがたいことにほとんど口コミです。私、パソコン使えなくて(笑)。お店に置いてあるパソコンは、お部屋に置いたら可愛いだろうなぁと思って買ったちゃいました(笑)。ホームページも作ってないですし、たまに作るチラシも手書き。でもそれもまた「味」かな?と思うたりします。地の利のようなことは気にしていません。知る人ぞ知る...というようなお店でありたいですし、「対馬にこんなお店があったんだあ」と喜んでくださるお声も嬉しいです。

創作意欲が湧く時は？

店にいる時よりも自宅にいる時。そばで息子が遊んでいても創作スイッチがピツと入ると作業が進みます。モノ作りは普段の生活の一部分ですね。あとは流木を拾ってきてインテリア用に加工したり、最近ではミシンで縫い物を作ったりも。洋裁学校出

身の母のミシンは本格的なミシンなので使わせてもらっていいなかつたのですが、最近そのミシンも古くなってきて、新しいのを購入したので使ってみたくて、すごく使いやすくて。最近では息子の入園グッズを作りました。絶対作ってあげたいと思っていましたから。私は形になればいいじゃない?と思うのですが、母は線も引かずに縫うなんて...と思うようです。ですから、洋服など大きいものは母に任せます(笑)。手先を使うのが好きなのは母譲りかもしれませんがね。

願いたいことがあるとしたら？

お店はこのままマイペースで続けていけたら嬉しいです。それと、夫はなかなか休みが取れない仕事なので、新婚旅行に行っていないんです。友人のいるオーストラリアか、子どもも楽しめる東京デイズニールランドに行きたいですね。ぜひ夫に休暇をください(笑)。

毎回、登場してくださった方、次の方をご紹介いただきこのコーナー。次回は上対馬町比田勝在住の豊永保聖さん千賀子さん夫妻です。お楽しみに。